



「文部科学大臣表彰」を受賞されました

ボランティアグループ「やまびこ」

「やまびこ」は、1990年に発足し30年以上もの間、毎月、点字新聞を作成し、市内外の視覚障害者の方々に届ける活動を続けられています。

点字新聞の内容は多岐にわたり、市広報をはじめ、一般のニュースや趣味につながるような詩、俳句、料理レシピ等、利用者が喜ぶような内容を選び、毎月一点一点真心を込めて手作業で点字新聞を作成されています。今では機械化が進み、タイプライ

ターや点字プリンターなどが主流になる中、「やまびこ」は手打ちをモットーに真心を込めて1枚1枚作成されています。

発行号数は令和4年3月号で364号を数えるとのこと。会長の大木場さんは「まずは400号まで続けることを目標に頑張りたい」と意気込みを語ってくださいました。

飯野高校生活文化科2年生 「フードドライブ」の取り組み紹介



フードドライブとは・・・

家庭に余っている食べ物を持ち寄り、それらを取りまとめて、地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動です。
学校や職場、イベント会場など、人が集まるところで、気軽に行えるボランティア活動です。

飯野高校 生活文化科2年生が、課題研究の一環でフードドライブに取り組みました。
令和3年9月、令和4年2月、学校内でフードドライブを行い、「子ども宅食をご利用のご家庭に使ってもらってください」と、社会福祉協議会に食材を届けてくださいました。

今回の取り組みをご紹介します。

生活文化科： 伊藤 凜、外屋 杏莉、竹平 愛鈴

研究テーマ： 食品ロスを減らし、地域に貢献できることを探す研究



生活文化科2年生



1. フードドライブを行うきっかけになったのは何ですか？

ホームプロジェクトの課題で、食品ロスを減らす活動をしているときに、フードドライブがあることを知りました。私の家は家族が多いので、食料が余り、賞味期限や消費期限が過ぎてしまうことが多くあり、寄付したいということがきっかけです。

2. 活動を行ってみて、どんなことを感じましたか？

今回、フードドライブという活動を通じて、学校全体の人々が協力し、とても嬉しかったです。この活動は、もらうだけでなく自分も助けられるということに気付くことが出来ました。また、社会福祉協議会という組織や子ども宅食などの活動があることを知り、私たちも微力ながらそういう活動に積極的に取り組みたいと感じました。



3. これから、がんばりたいことは何ですか？

地域の課題を解決できるように、今回のような活動にたくさん参加していきたいと思いました。また、フードドライブの活動を終えて、これからは自分たちで提案をし、自分たちで行動して地域に貢献できるように頑張りたいです。



3月の子ども宅食配達時のお便りも作っていただきました。



飯野高校の皆さん、本当にありがとうございました。

これからも学業に励むと共に、地域に根差した活動をぜひ続けてください。皆さんの活躍をご期待申し上げます。



こども防災体験「カレーの日」

(真幸地区)

12月4日、真幸地区コミュニティセンターにて「カレーの日」を実施しました。こども防災体験では、「ハイズックスを使った非常食づくり」「新聞紙スリッパづくり」「簡易担架づくり」を行い、中学生のお兄さんお姉さんといっしょに、楽しく防災体験を行うことができました。

ボランティアとして協力いただいた、「真幸中3年生」、「えびの市赤十字奉仕団」「一般ボランティア」の皆さんご協力ありがとうございました。



コロナ感染拡大で献血が減少しています!

献血は命をつなぐボランティアです
皆様のご協力をおねがいします



400ml献血する

ためには・・・???

年齢：17歳（女性18歳）～69歳

(65歳以上の方は60歳以降献血された方)

体重：50kg以上

ファイザー・モデルナ接種後48時間

で献血可

手話講習会

～受講生募集のお知らせ～

- * 開講式 令和4年4月21日(木)
午後7時30分～9時
- * 講座日 毎週木曜日(祭日等は休)
午後7時30分～9時

* 申込お問い合わせ

申 込 直接開講式に来てください。
問い合わせ

えびの市役所福祉課福祉係35-1111

えびの地区防犯協会内(川田)33-2399

ボランティア 団体紹介

『えびの市食生活改善推進協議会』

会長 秦工ミ子

活動内容

えびの市は県内でも高血圧の人が多い地域です。市の計画にある「元気に笑って健康えびの」その目標に「おいしく減塩できる」があります。一人でも多くの方が日常生活を見直し、改善できるよう行政と一緒に推進しています。「おいしく減塩」「野菜1日5皿」活動で、食生活をより豊かに充実させ食の大切さを広め、明るく健康で元気な地域づくりを目指して活動を続けています。



現在9名の会員で、調理実習や地域に出向き塩分濃度チェックなどを行いながら食生活改善に向けた啓発活動を行なっています。

会員募集中です!料理好きな方、是非いっしょに活動しませんか!

《お問合せ先》 えびの市ボランティアセンター TEL 35-2800

収集ボランティア活動

(アルミプルタブ・ペットボトルキャップ収集)

「自分に何かできることはないだろうか?」

家庭や学校、職場で気軽にできるボランティアのひとつに、収集ボランティアがあります。身近にあるものを集めることで、福祉用具や発展途上国への支援活動費などに役立てることができます。

みなさんも、収集活動を通じてボランティア活動を始めてみてはいかがでしょうか?

えびの市社会福祉協議会に
回収BOXを設置しています



車椅子や福祉用具にかわるまで!

プルタブ800kgドラム缶7本で
車いす1台になります。

えびのボラセンで
プルタブを回収

環公害防止連絡協議会
に送る

アルミ重量から送料分を
差し引いた残りが
記録される

800kgになると
環公害防止連絡協議会から
車いす1台が送られてくる



ワクチンにかわるまで!

ボトルキャップ800個(約2kg)で
ポリオワクチン1本分になります。

えびのボラセンで
キャップを回収

リサイクル業者へ
売却

NPO法人
「世界の子供にワクチンを」
日本委員会に寄付
(ワクチン購入)

発展途上でワクチンを
必要としている子供たちへ
届けられる